
強くなりたいが戦いは勘弁

me to

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

強くなりたいが戦いは勘弁

【Nコード】

N9145V

【作者名】

me to

【あらすじ】

良く分からない内に転生しました・・・それにしても、物凄く長い夢だな

夢でしょ？

「キサマの願いを3つ叶えよう」

「……………」

如何いう状況だ……………願いを？3つ？

「はっ！？シエンロン神龍!？」

「良いから願いを……………ギャルのパンティ送れえええええ……………」

あり?……………空気が死んだよ?……………なんか違った?だつて目の前に神龍がいるんだよ?
男だったら……………」

「真面目に答えぬか!」

「うお!?!……………な……………んつだと!?!」

パンティを願ったのにギャルが来ただと!?!……………くつやはり偽者だったか!!

そつだよなあ・・・そう簡単に神龍がいるわけ無いよなあ・・・
・ああゝ人の夢と書いて儂い

別にパンティが欲しいと言うより願いが叶って欲しいとかそういう意味で・・・つまりなんだ
男のロマンなんだよ。

「おい」

それにさあゝ起きたら「3つの願いを叶えてやるう」何て聞かれ
たからさあゝ
とつさに思いついたのがこれな訳でさあゝ別にゝ願いとか信じてな
かったしいゝ

「おい」

いやマジだよ本気と書いてマジだよ別にワクワクしてないって
・・・何だよ、そんな眼で見るなよ

やめるよ・・・やめろって！！ワクワクしてたよ！！頭の上に
パンティが何時落ちて
くるかワクワクしてたよ！？悪いか！？俺も男なんだよ！！健全な
男の子なんだよ！！

「返事をしろ！！」

「うお！？居たの！？」

「始めから居る！！」

「そうだったねアハハハ」

「はぁ、良いから願いを三つ言え」

「って待てよ……コレはアレではないか願いが叶っている！？
そうだよ！パンティが来なかっただけで
ギャルは来たじゃないか！！アハハハ願いは叶えられる！！欠陥
品だが……まあ事細かく言えば大丈夫だろう、うむ」

「んんっ……それでは」

「うむ」

「ギャ……美しい人間の女性が着ているパンテ……下半身
に直接身につけるものを送れええええええええ」

「……」

ワクワク！

「……」

ワクワク!!

「……………」

ワクワク!!

「……………」

「ありえ〜?」

何故だ…………アレほど事細かく言ったのに…………何の反応も無いのだ…………目の前の女性も目を見開いて啞然としてるし…………はっ!?美人って欲張ったせいか!?

「仕方ないもう一度…………んんっ」

「お前、状況分かってないだろ……………」

「え?願いをかなえるんでしょ?」

「いや、そうだが……………」

何を言ってるんだこの女性はこんなに面白い“夢”なんだ楽しま
なくて如何する

「やっぱり分かってないだろう・・・お前」

「失礼な・・・俺の夢の人物の癖に生意気ですな君」

「・・・・・・・・・・」

なんでコイツ駄目だ見たいな顔で見られてるんだ・・・

「はぁ・・・キサマ自分が死んだのを気付いておらんのか」

「死んだ？・・・俺が？」

「そうだ」

なっなんだってー！？・・・・・・・・アレ夢じゃなかったんだな、
うん

「それだけ？」

「え？・・・あ、そうだが・・・」

「でわ・・・少女の下半身に直接身につけるものを送れええええ

え

「やっぱり分かってないだろ!!!お前!」

ハリセンで思いっきり殴られた……くっ夢なのに痛い

「くっ何て現実味がある夢なんだ……」

「現実なんだが……」

「……」

現実?リアル?real?……oh!

「喧嘩売ってるだろお前」

「あ、分かつちゃう?」

また思いっきりハリセンで叩かれた……くっ……さっきより痛い

「はぁ……もういい、一から貴様の状況を話してやる」

「え、別にいいです……」

「キサマが死んだのは私の責任でな……」

無視されちった……なんか長くなりそうだな……ふう
ああ……眠くなるぜえ

～～～1時間後～～～

「そして、貴様が此処に来たわけだ分かったか？」

「ZZZ……。ZZZ……。」

「……………」

はっ！？殺気！？……おう、その右手に持っている刀は何で
すか……………」

「聞いてたか……………」

「……………グッ」

~~~~~少々「たすけっ!?ウggYサ」お待ちください~~~~~

「貴様の今の状況は理解したか・・・?」

「ふあい、ふあかりました・・・」

刀はあんな風に人を斬つちや駄目だと思うんだ・・・どのような斬り方だったかはお想像にお任せします。言える事は刀としての使い方を間違えてると思うんだ・・・

「それでは三つ願いを叶えてやろう」

状況把握はした・・・つまりアレだ転生だ・・・テンプレですね

「一つ目の願いは!?!」

「願いは?」

「ギャルのパンティおくれええええ!!」

やだ／＼／そんな眼で見ないでよ／＼／冗談じゃん／＼／

「次ふざけたら……な？」

「はいっ」

「さあ願いを早く言え……転生するのにこんなに長くなったのはお前だけだぞ」

「えへへ、それほどでも／＼」

「褒めてない」

ありや、残念……うん、願いか

「しかし、神龍シンリウと同じ数の願いかあ」

「むっ？」

「って事はこの神様は神龍と同レベルかあ……まあ別にどうでも良いけどねえ」

「むむっ？」

「せめて願いが4つだったらなあ……」

そして此処でジッと見……………さあ行動を起せ

「その手には乗らんぞ」

「……………ちっ」

流石は神かこんな子供だましじゃ無理か……………

「……………」

「……………」

ふう……………仕方ない……………奥の手を出してやるつか……………

「4つ4つ!!お願い4つが良いいいいい!!」

「……………(汗)」

「4つ!4つ!4つ!お願いいい!!」

「ちよ」「4つうっ」「……………」

ふははっははは……勝った！

「4つ4つううお」黙れ」……ふあい」

首筋に刀を当てるのは反則だと思っただ……

「ささと4つ願いを言え」

「え……良いの？」

「ふんっおまけだ」

デレた……て言うか！いいひ……神だ！！

「まあ、4つも願い考えて無いんだけどね」

「ああ？」

「冗談です」

もつそろそろ、消滅させられそうなので真面目にしようと思えます

「1つ目の願いは【気配を操れる能力】」

「気配を?・・・ああ、分かった」

説明してないのに?流石神ですなあ〜・・・心でも読んだのかな?

「2つ目は【鍛えれば鍛えるほど強くなる“力”】」

「次は?」

一々説明しないで良いから楽ですなあ〜

「3つ目は【全ての世界の魔法や技術の使い方が書かれている本】」

「了解だ最後は?」

「うくん・・・そうだな【力と付くもの全ての才能】を一般人よりそこそこ強いぐらいでくれ」

「なるほど・・・これでいいんだな?」

「OKOK」

転生かあ〜・・・ドキドキですなあ〜・・・やっぱり落とし穴で転生かなあ〜wktk

「それではその扉をくぐれ」

「……………」

「な、なんだ？」

「いや、別に……………」

何か……………普通う……………落とし穴、体験したかった……………

「そういえば、何処に転生するの？」

「ああ、言い忘れておったな……………なんだ……………え〜とリリカル……………なんだ」

「あ……………うんもう良いよわかった」

「そうかそれでは言って来い」

ふう……………それにしても……………

すんごい現実味のある夢だなあ〜  
・  
・  
・  
・  
・

「あやつ、まだ夢だと思っていたのか……」

おつかさんとおつとさんがログアウトしました

どうも生まれて4ヶ月の赤ちゃん……名前はまだ無い、です！いやあく生まれて1ヶ月で捨てられるとは思いませんでしたあく

捨てられたときは思わず……「俺を捨てたことをキサマは後悔するぞ！！絶対後悔するからなあああ」……何て考えちゃいましたよ……本当に居なくなった時、目尻が熱くなつたのは内緒だ捨てられて三ヶ月は力を鍛え続けましたねえ〜今の所、確認できているの力は【魔力】【気力】【超能力】の3つですな

今、集中的に鍛えてるのは超能力の【念力】ですな……1歳児にもなっていない子供が生きるのに一番効率がいいのはコレなんですよ……本を読むのにも何かしら動かせる力が要るし

3ヶ月でやつと人サイズの岩を浮かび上げれるまでになりましたよ……ええ

そう言えば今、自分が居る所を言ってますでしたね……山です

え？……だから山、マウンテン、Mountain！

ええ、自分も思いましたよ？責めて養護施設の前に置くなりして  
くれれば良いものを

まさかの山に置き去りですよ……憎しみで人を殺せたら……  
・なんておもちゃったり

こつやって独り言を言うのも飽きてきたので時間跳躍をしたいと  
思います……3年後にまた会おう!!

〳〳3年後に時間が飛びます(この間主人公は力を鍛え続けてお  
ります)〳〳

1年：本を浮かばせるようになったので魔法を覚えようと思います

2年：1年間魔法について読み漁りいざ使おうと思ったが詠唱が  
出来ないここに気付き断念

代わりに魔力を放出し続け魔力量を増やし続けた途中で気の練習もしてみた……手からビームが出た時は心臓が止まるかと思った

3年：それなりに喋れるようになって来たので1年間で物凄く増えた魔力を如何にかするために封印魔法を使うことにした魔力を永遠と喰らい続ける呪い……これで魔力量が更に増えるので一石二鳥

「ふふふ……魔力の方はもう気にするひつようはないぬぁ」

どうも紅小我<sup>へにしようが</sup>(仮) 3歳4ヶ月です。名前はまだ決定してません

「さてと……流石に戸籍と家と食事を何とかしないと死ぬな」

これまではそこら辺に生えてるキノコ(紫色の)とか木の实(毒々しい)で何とかなつたが此れからはそうは行かないだろうしなぁ

「BOOK……え〜と……なんか言い方法は……」  
ほう

「ただどネットには……いやあの魔法を使えば……なるほど……ふむふむ」

「ふふふふふ、これで勝つる」

それでは皆さん戸籍を作ったときにまた会いましょう

効率的な修行方法・・・・・・・・眠い

家を手に入れた主人公紅生姜べにしようが（仮）3歳6ヶ月です！まだ戸籍は無い

「時間が足りない・・・・・・・・」

魔法と気そして超能力の練習をするのは良いが身体能力や武器を使う修行が出来ない

「くつ・・・・・・・・武器に魔法を取り入れて修行？・・・・・・・・いやいやそれは・・・・・・・・面白くない」

育ち盛りだから睡眠時間が長いからどうしても時間が裂けない・・・・・・・・む？睡眠時間

「いやだが野菜小僧の世界のアレを作っても歳を取ってしまうのは駄目だ・・・・・・・・」

早死にしたくないとです・・・・・・・・まで睡眠学習・・・・・・・・これはどうだ・・・・・・・・

「嫌しかし・・・睡眠は最低9時間・・・9時間で睡眠学習・・・魔法しか覚えられないじゃないか」

駄目だ・・・他に言い方法は・・・睡眠・・・時間・・・  
・確か野菜小僧のアレは中と外の時間の経過が  
違っただったか・・・中？外？・・・睡眠中・・・精神？・・・  
・体・・・

「そうか・・・そうすれば身体的には成長しないが経験はつめる・・・技も覚えられる」

クククっ我ながら恐ろしい・・・だがどうやってソレを実行するのだ

「つまり・・・こう言う事だ」

### 1 体と精神を分ける

2 精神を中、体を外と考え中と外の時間軸をずらし精神状態で修行に打ち込む

### 3 そうすれば睡眠時間に魔法、超能力、気の修行が出来る

4 これにより睡眠中、活動中によって修行を割り振ることが出来るのだ。睡眠中は魔法などの精神的な力、活動中は身体的な力を鍛える（知力、筋力など）

「まず中と外を作ればいいんだな．．．まず時空魔法などで空間を固定時間の流れを変えて」

これによって中の準備は出来た．．．後はこの中に自分の精神をどうやって入れるかだが

「テレポートとテレパシーを上手く使えば行けるか．．．」

．．．自分で異能を作るとは考えなかったなそういや．．．

~~~~~数時間後~~~~~

結論から言うと．．．むり！．．．だったんだが出来た．
．．．死にかけたら出来ました

字の通り死に掛けて魂が出かけたところで目が覚めたら精神体で
した……ふっ……

名前を付けるなら— マインド Mind トランスファ transfer 精神を俺の作っ
た擬似世界に

転送させる能力だ Moving spirit っちと悩んだが前
者にした

ふふふこれで俺は、さらなら強者に……あ、でも戦いはいい
ませんから

そついや、此処ってアニメ？漫画？の世界だったよな

順調に力を付けている紅生姜べにしじょうが（仮）5歳です。戸籍は出来た

現在自分はマンション（家）から飛び出し、無人島でサバイバル生活をしています。魔法、超能力
気、無しでの無人島生活です……え？5歳ですけど？
結構辛いです。修行のためとはいえ

現在此処で主にやっている修行は身体能力の無上、気配を操る年
収をしています。

正直忘れとった……気配を操る能力を貰ったことを

今は自分の気配をそこら辺の石ころ並みにはできるが完全に気配
を断つことは出来ません

それにこの能力自分の気配を他のものに移すことで前に俺がいるの
に後ろに俺の気配がすると言つ不思議空間ができちゃうんです。正
直、幽霊並みに怖いですな。

つまり俺は前にいるが殺気は後ろから来る？みたいな……うん、
分かんない……まあ気配の発生源が変えられるって事で

「……………むむむむ」

そして現在、人肌が恋しいです……

「人と喋ってない……会話をしていない……と言っより人を見ていない」

無人島ですから

「うなあああああああああああ……ぬ？」

自分が住んでいる町付近に強大な魔力が6つ……何時からあの町は魔境に……!?

「ふおおおおお?!な……なん……だつと!？」

一瞬で強大な魔力はんのうが2つに減った

「おそロシア……ロシアじゃないけど……」

……紅生姜5歳……無人島で住む所間違えたかな?つ
と考えた日

「ぬなあ〜……………」

暇あ〜……………体は動いているけど……………

「子供……………」

「なツ……………んだと……………」

適当にずんずん無人島を進んでいると目の前に長老が現れた……………
…って!?! 気配に気付かなかった……………なんだこのじいさん

「……………」

「……………」

見詰め合うこと数分……………動いたのは俺だった

「見なかったことにしよう」と

「ふお!?!」

そのまま爺さんの横を通り抜けて走りだす……………あれ?何か追

いかけてきてない？

「待てえい！小僧おおおお」

「ふお！？」

おつと驚き方が被ってしまった……老いぼれと重なるとは・
くつ一生の深く

「つて……速！？」

「ふおふおふおふお！」

笑いながら俺の後ろを追いかける超爺さん……だが甘い！
！俺の本気は此れからだ

「うおおおおおおおおおおおおおおおお！！」

「のお！？ふおおおおおおおおおおおおおお！！」

俺が加速をすると同時にウルトラ爺さんも更に加速をする……
なんだ！？あの爺さん！？くそつ爺だと思って油断したが、もう容
赦しねえええ本気の本気じゃああ

「ふっ!!」

「むっ!?!」

俺は光になった………服が………
・ソニクムーブと一緒に………くっ(泣)

「ふっ……俺の勝ちだ、爺」

置き去りにして来た爺が念入りその場にいないのを確認して寢床に帰った……丸裸で

「てか……此処、無人島だよ……」

今日から無人島ではなく……不思議島にしよう……

爺に気を取られて……なんか忘れてたような……そうだが
住む町を変えるかどうかだ……って何で住む町かえるんだ???.
……

爺が子供を連れてこっちを見ている

スーパーウルトラ爺さんから1週間・・・取り合えず一旦衣服を買いに戻ったり色々修行をしていた1週間・・・何時もどおり気配を断ちながら（まだ完全には消せない）マラソンをしていた今日この頃

「見つけたぞい、小僧」

「・・・・・・・・」

なっ・・・・・・・・いつぞやのスーパーウルトラハイ元氣爺！？つと・・・・・・・・誰？幼女？YESタッチNOロリ？あれ？これじゃ「幼女は見るものじゃない触るものだ！！」・・・・・・・・変態じゃねえか・・・・・・・・

「爺様、この方が？」

「うむ」

「・・・・・・・・」

駄目だ状況がさっぱり分からん・・・・・・・・逃げるか？・・・・・・・・い

や囲まれてる！？何時の間に、何時の間に此処は無入島じゃなくなつたんだ！！……あ、不思議島か……

「小僧よ」

「……」

ふうう……さて……と

「小僧？」

「上がお留守だぜ、爺！！」

「ふお！？」

木々を伝ってその場から逃げる

「H A H A H A H A、さらば^{パンッ}d……」

綺麗なメイドのお姉さんが銃口をこちらに向けながら近づいて来る
銃は卑怯だと思ふんだ……やめて銃口をこっちに向け
ないで！？言う事聞くから！？

「親方様、捕らえました」

「うむ」

「さて小僧、付いてきてもらっぞ」

「楽しみです！」

何が楽しみなのか分からない……て言っか幼女お前は何だ！？……いや何となく分かるが

「OH……へリ」

「ふおふおふお」

この人たち大金持ちなんだなあ……へりに連行される、気分は宇宙人……メイドさんもう銃口を向けなくても良いんじゃないかな？うっうっ（泣

「さてと、自己紹介をしようかの私の名前は龍宮陰翠斬」

「私は龍宮陰命華です！」

「……」

カッケエエエ……何だよ龍宮陰つて……俺の名前なんて……生姜……くっ（泣

「紅翔我（仮）だ……」

少しカッコよくしてみたり……ふっ……完璧……まあ
仮だけど

「仮？」

「仮だ」

外の風景をチラッと見る……海かで日本の位置は……ふむ
ふむ

「まあ……良い……で翔我か？」

「なんだ爺」

「お主には娘の対戦相手をして欲しいのじゃ……昔から武術を
教えておっいたら周りで戦える相手がわししかおらんかったもんでな」

「……」

ええええ……戦いたくねえ……て言うかそんなキラキラ
した目で俺を見るな命華とやら

「見るなり、行くあても無いじゃろ?」

「ワクワク」

「……」

良く見るとこの命華とか言う幼女……すげえ気だ……
え?何?何か間違えた?え?美幼女?あゝ……言われてみれば
そうかも

「どっじゃ……?養子にこんか?」

「ジッ」

「ふう……うん!」

逃げるか!……丁度海のと真ん中ぽいっし

「養子に来てくれるのか!?」

「ンなわけ有るか!」

「え!？」

扉を無理やりこじ開けへりから飛び出す・・・命華とやらがみただけで残念そうな顔に・・・まあもう飛びおりとるから知らん

「逃すかあああああ!!！」

「なあに!？」

爺が追いかけてきた・・・くそ、この化け物爺が!？

「だが、一步遅かったなあ!!爺!」

海に飛び落ちたと同時に水面を走る・・・もちろん爺も

「フオオオオオオオオオつ!!！」

「割れるオオオオオオ」

拳を水面に叩きだし水割り爺をそのまま割った水面に落とす

「ふおお!？」

「フハハハツハ！今度こそさらばだ爺いいいいいい」

爺が海の藻屑？になったかは分らんが飲み込まれた……
たぶん生きているだろう

名前を本気で考えてみた……

昨日名前の件で屈辱を受けた俺は……本気で自分の名前を考
えることにした何時までも仮じゃ駄目だと思っただ！

「と言う事で名前を考えたいと思います……一人で……」

「

そう……一人で……友達……うっ……さ、
さみしくなんか……寂しくなんか……

「……小学校……行くか……友達……100
人……うっ」

……何の話だっけ……そうだそうだ、名前だ名前

「取り合えず内田祐樹？……普通、名前負けだろ」

鳳凰狂夜……ちゅ……駄目だろ……病気だよ

「ガンダム眼打無……当て字じゃねえか……」

ギ・メイ……なんだよギ・メイって繋げたら偽名かよ・
・本名だよ考えてるの

「ホン・ミヨウ……まあそんな感じになるわな」

なまえ生江……駄目だろ、もう適当だよ……

「へにしやうが紅生姜もつお前しかいない……」

と言つ事で……

俺の名前はくれないしやうが紅生姜だ、またの名をくべにしようが、だ今年で6歳になる

学校は後5ヶ月で始まる……行くか行かないか迷ったが……さ
みし……じゃなくて何となく行くことにした

これはそんな、さみし……最強を目指す……男の物語である

「完璧！……一部気になるが……完璧だぜ！」

と言う訳で……名前が決まったんだが……実はこれ現実逃避だったり……

「ふおふおふおふお」

俺の家の周りが黒服と爺に囲まれてるんだよ……なぜばれた……名前言ったからですよ……

「くっ……あの爺……見つけましたよ！」!?」

キサマは命華とかなのる幼女!?!?!だがこれくらいのがキ

気付いたら知らない豪邸でした

「はっ!?!」

「ふふっ起きたかの?」

何処だ!?!キラキラしとる!?!?・・・部屋がキラキラしとる!?!?

「つて、誘拐爺!?!」

「ゆうかつ!?!?」

くそお捕まってしまったのか・・・・・・・・だが

「家族になるのわ断固拒否する!」

「そうか・・・・・・・・じゃが!?!そういつと思ってお主には

お主には?・・・・・・・・めがさ嫌な予感する・・・

「執事になつてもらつことにした」

「6歳児になんてむちゃな!？」

「ふお!？6歳児じゃつたのか……孫達と最高で4歳さ……」

え、あの子だけじゃないの………孫……貴様みたいな化け物がまだいるというのか

「まあよい、お主には長女の命華の執事になつてもらつからの」

……あの子10歳なんだ………まあ良いけどさ

「うえ〜………」

「そもそも、お主には命華の相手をしてもらわなければならぬのでな」

「………対戦はともかく執事になるのは良いか………うん覚えといてそんは無い」

「え………良いの………?」

「え………良いけど………?」

と云うことで……

「今日から、貴方の教育をする事になったエリですよろしくお願
いします」

「おお……本物のメイドだ……ってアレ？」

どこか……で……ごう脅された……うん

「まあいいか」

「??.?」

特に何時もの生活と変わらず、ただ執事の勉強が追加されたぐらい

「ベニ!!紅茶の入れ方になっていません!!やり直し」

人から教わるというのは初めてなので……何時もwkkkkです

「勉強も覚えてもらわなければなりません」

「うん」

「何か？」

「はい……」

エリさん怖いです……そういや俺って6歳児だよな……上目ずかいとか利くのかな

「エリさん(うるうる)」

思ったら実効……それが私めです

「何です……か？」

「別に何でもないです……(ジュー)」

ふむ……利いてないな……コレは

「そうですね……ボソボソ」

「?……なんですか？」

「いえ……」

んん？顔が赤いような・・・気のせいかな？・・・ん？？？

「んんっ兎も角、貴方には命華お嬢様のお傍に使えてもらうのですから」

「うえいっ・・・」

「なんですかその返事は・・・？」

「はい」

あ・・・学校どうしよ・・・まあ適当に逃げ出せばいいか

執事？何それ？美味しいの？

今日は入学式！ふふふふ、友達100人だ！……出来ると
良いな……できるかな……

「入学手続きもばつちり……ヒヒヒ」

執事？……ナンノコトヤラ……

「それにしても……」

何だこの小学校……強大な魔力のうち1つが此処にいるん
だが……あのツインテの子
はっ！？まさかあの子が！あの有名な！！

「ヒロインと言う者なのか……」

て事は残りの小学生離れた気配を持っているのが主人公なのか
な？4人いるけど

「はっ!？」

そうか、分かったぞ・・・あの中の一人がこの世界の主人公で後は愉快的仲間達なんだ!!

「我ながら、天才か」

そうと決まれば、あの人たちには関わらないようにしようかと・・・戦いはいやとです

「・・・・・・・・」

俺の周りにいた生徒達が俺を奇妙な眼でジッと見てくる

おう・・・・・・・・気配を消すのを忘れてた・・・・・・・・ヤダノノそんな眼で見ないでノノノ

「これで入学式を終わります」

「助かった・・・・・・・・」

ふういゝ・・・・・・・・さらし者はいやとです。・・・・・・・・あれ?ヒロインさん一人ぼっちじゃないですか?

ありい?主人公さん達は・・・・・・・・うん、既に教室に移動ですか

ね…………あれ？見当違い？

「教室行くか」……………」

と言いながらもヒロインさんが動くまでソコを動かさない……………
・おう……………ちよ……………うい……………自分と同じ状況って……………
・寂しいやないか！！……………いや俺は寂しくないよ？……………うん

「ダメダメ……………うん」

忘れて、教室行こう……………ヒロインさんも教室に移動する見たいだし

「……………」

ちよ、何ですかその教室の行き方！？もうちよいwktkしても
良いんじゃないんですか！？俺なんか……………wktk……………し
すぎですね……………はい……………なんかスイマセン……………友達欲し
いんだよう話し相手欲しいんだよう……………あ、あの爺と幼女は無
しで論外論外

「後で文句言ってやるうか……………だが」

主人公達と知り合いになるのは何とか辞めて置きたい……戦いに巻き込まれる

「ふい〜……………」

教室に着いた……………他の子供達はもう友達が出来ている……………
……………つて！？俺、無視されてる！？

「……………不貞寝してやる」

悲しくなんか無いやい！……………ZZZZ……………。

……………

「はっ！？」

夕方・・・え・・・なんで誰も起こしてくれないんですか・・・あれ？おかしいな目尻が暖かいや

「・・・・・・・・か、悲しくなんかないやい!!」

あれ？デジャブ・・・・・・・・

「ふう・・・・・・・・お家に帰る・・・」

あ、そういえば私・・・家変わりました！

「見て驚け！聞いて驚け!!」

注意：この場には誰も居ません

「此処が俺の家！！ほとんど人も来ない！絶好の寢床」

そこにはブランコ、ジャングルジムなどの遊技がある・・・

「公園だああああああああ」

俺の名前は紅生姜くれないしょうが6歳、私立聖祥大附属小学校1年生のホームレス小学生だ

「仕方ねえじゃねえかよ……爺どもを撒くには自分の家など全ての情報をごちゃごちゃにするしかないんだから……家を買ったら即発見だ……」

だからこの公園は俺の家……無許可だが……

「ふい……力の修行しときますかね」

先ず気配を出来るだけ……ゼロに……

「ふう……」

狙うのは、目の前にある木の葉っぱを同時に百枚斬る……手刀を作り神経を集中する……

「はっ！」

シャツと鳴る音と共に目の前にある木が微かにゆれ切れた葉っぱ

が落ちてくる

「……………5枚斬り損ねたか……………」

まあ3年で此処まで身体能力上がったんだから勘弁勘弁、魔法とかの方はすげえ上がってたんだから

経験で言うと……………6000年?ぐらいは修行してるんだからね

・寝ると最低9年は帰って来れない

て言うかそう考えると……………俺って精神年齢……………やめよ……………考えるのは

「……………ん?」

人の気配が……………背後!……………っと……………何だまだ俺には気付いてないな……………

「その内帰るだろう……………」

そうそう、今は俺は気配が無いも等しいもんねえ……………
その場にある椅子に座る……………此処が寝る場所だったり……………

「君そこで何してるの?」

「うえあ?!!」

な……んだと!?!?……俺に気付いただ……と?!!こやつ何者……って……あれ?この子はアレじゃない?ほら……えくと……そうヒロイン!!?!!って!?!ヒロイン!?!?

「どうしたの?」

「あ、いや……此処に人が来るのは始めてだったから……驚いただけ」

そう言つと納得したように頷きヒロイン?さんは俺が座っている椅子の横に座る

「君つてここによくいるの?」

「ん?そうだね……何時もいるね」

「へえ……」

な、何が目的だ!?!ヒロインよ!?!?……いや……まあ目的なんてないのは分かりますけど

「君は何で此処に?」

「え……何となく……かな？」

うん……何と云うか……話が續かない……いや……あゝ

「よし!」

「にゃ?!」

にゃ?……あ……うん……まあ良いけど……うん、取り合えず本題に

「君、名前は？」

「え、えつと……高町なのは……なの」

「高町……にゃのは?……あれ?」

「なのは!」

そんなに怒らなくても……ちょっと……最初のにゃつが耳に残っただけじゃん

「あはは、なのはね、うん覚えた……で俺の名前は紅生姜……
しょう、しょうくん、くれない、好きに呼んでくれ！」

「え……う、うん」

よし……心の準備は良いか？……俺は出来ている

「お、俺の友達になってくれないか……？」

「……え……あ」

やっぱり……駄目ですか……こんな寂しい奴友達に出来ませ
んか……

「うん……良いよ」

「ふぉ！？」

おっと……鞆が出てしまった……

「え、……良いの……？」

「……？」

ヒヤッハーーーーー！！友達第一号ゲットウウウウウウ

「よろしくな！！高町さん！！」

「う、うん／＼．．．あ、あとなのは、なの」

「お、おう！そうだな！なのは！！」

何か顔が赤いけど知らねえ！！友達だぜ！話し相手だぜ！ヒヤハ
ーッ

その後は色々と遊技で遊んだり話したりして楽しく過ごした

「あ、もうこんな時間なの．．．帰らないと．．．」

「そうか、まあ何時でも俺は此処に居るんでよかつたら何時でも此
処に来てくれや！」

「うん！じゃあね！くーちゃん」

そう言いながら家へと帰っていく．．．．．つてくーちゃん．
．．．つておい．．．．．まあいいや友達第一号だから許す．．．うん

「つて！？俺は何ヒロインと友達になつてるんだあああああああ
ああああああ！？」

あ、でも俺があこの学校に入学してるかどうかは言っていないから大丈夫か・・・ふう・・・学校で会わなければ大丈夫・・・うん

友・・・違ひやく・・・に・・・ん・・・うっ(泣)

おはようからこんばんわまで・・・へにしよつが紅生姜・・・です。我ながら上手い名前を付けたものですよ・・・何時も子供達に美味しくないと残される嫌われ者・・・まさに学校にいる・・・俺

と・・・友達・・・できない・・・うっ・・・何故・・・

「・・・・・・・・」

「「「「「きゃきゃきゃきゃっ」「」」」」

俺の状況・・・もう分かっちゃう？・・・最初はやった！一番隅の席だぜ！ヒヤホーツ何て考えてたんだよ・・・今では、誰も近寄らない俺専用のダークホースだぜ・・・

「・・・・・・・・」

「「「「「きゃきゃきゃきゃっ」「」」」」

いじめ・・・かっこわるい・・・うっ(泣)

「人の夢と書いて儚いか……………」

「「「「「きゅきゅきゅきゅ」」」」」

……………今の僕ならナンデモ出来そうな気がするんだ……………フフフフ

「……………」

「「「「「きゅきゅきゅきゅ」」」」」

何だか……………眠くなってきたよ……………パト ッシュ……………
お前も眠いのかい……………？

「ZZZ……………。ZZZ……………」

“僕”の名前は紅生姜ベニショウガ私立聖祥大附属小学校1年生、友達を作ろうと入学したが何故か誰も近寄ってこない、名前と同じようにカレーライス、焼きそば、なんでもござれな紅生姜とは僕の事さ！

「ZZZ……………うつ」(泣)

不貞寝をしていたら外からパチンツと何かをぶったような音が鳴る

「・・・・・・・・つ!?!」

な、何だ!?! 敵襲か!?! .. . 敵襲なのか!?! 敵はどこだ!?!
・・てk・・ん?

「痛い?でもね、すずかちゃんが受けた痛みはこんなものじゃないんだよ?」

・・・・・・・・え・・ なんか知らんが男前やでなのは・・・・・・・・ヒロイン・・・・・・・・?え?

「何するのよ!?!」

おお・・・・・・・・喧嘩・・・・・・・・洒落にならない・・・・・・・・ちよっ誰か止めたげて!?! 俺?主人公が見てるからパスでお願いします・・ それにこれで主人公が分かる!?!

「やめてえー!?!」

・・・・・・・・な・・ なんだ・・ つと!?!すずか? だっけ?

あの子が主人公!!?・・・えっ・・・と言う事はゆ、百合・・・
ふぁ!?

「ふぁんぱねえな」

取り合えず・・・眠ろう・・・うん・・・見なかった事にし
よう・・・ゆり・・・だめだだめだ!!・・・考えちゃ負けだ
!!負けなんだぁ!眠れえ!眠れえ!

「ZZZ・・・。」

寝れました・・・

「なっ・・・!?!?」

起きたら夕方・・・と言う訳でもなく昼休みになつていて3人が
仲良くなつてました・・・て言うかあれもう友達だよね・・・ぬ
あんたることかぁ!?!?・・・金髪の子、モブじゃなかったん
だ・・・はっ!?!?と言う事はしゅ・・・修羅場!?!?・・・ど
ろどろ!?!?・・・おう、此処は小学校なのか・・・

「俺、思考がおかしいな・・・。」

．．．．．疲れてるだけだな．．．．．うん．．．．．帰って．．
．寝よ．．．早退早退いゝ．．．．．べ、べつに友達が出来てて羨ま
しいとか思ってるんじゃないんだからね!!．．．．．うん．．．
思っでない．．．．．はず．．．

「うっ．．．．．(泣)」

その日、公園に着いた俺は眠りに付いて起きることは無かった．
．．泣き疲れた訳じゃないぞ!!
そついえば俺を呼ぶ声が聞こえたが．．．．．まあ俺の知り合いに3
人の女の子はいないから良いか

元主人公組みが戦闘を・・・ちよっ!?

「・・・・・・・・・・」

目が覚めたらそこは・・・・・・・・公園でした・・・・・・・・そりゃ住んでは
ますからな

「今日は学校が休みですか・・・・・・・・」

うぁうゝ・・・・・・・・・・はっ!?!?気配!?!?・・・・・・・・何だ猫か・・・

「・・・・・・・・」

(ジーツ)

何で見られてるんだろうか・・・・・・・・俺は・・・・・・・・俺の思い違
いだといんだけど・・・物凄い哀れみの目で見られてる気が・・・

「・・・・・・・・」

(ジー・・・・・・・・にゃう)

猫が一声鳴きそのまま何処かへ行く……やっぱり気のせいじゃない！？物凄い哀れまれてる！？

「俺って……そんなにひどい……のか……？」

注意：一般的にこれを酷いと言わなければ日本は平和では有りません

「……」

それにしても珍しい毛並みの猫だったな……ああ、忘れてたけどここは魔境か……

公園に住む小学生も居ますしね

「む……！？」

魔力反応が二つ……？どうやら戦闘の様だが……模擬戦か？

「あ、結界が張られた」

しかも物凄い高性能の結界だな……集中してないとわからねえや

「これは負けられませんな!!」

戦わないけど……それにしても……ふむ、気になるな

「丁度、気配も0に出来るようになってきたから修行もかねて見てみるかな」

逆探知されないようにしなきゃならないけど……まあ適当な魔法で

「魔法とは所謂イメージが大切……【ステルス】?みたいなの」

イメージだけで出来るのは超能力などもあるからだとは私は考えている

「ふふふ、では行こうか……元主人公達の力とやらを見せてもらおう」

何故もとだって?……主人公って月村すずか何でしょ……

?物凄い身体能力だったし

・ ・ ・ ・ ・

「うおおおおおおおおおおお!!」

「うああああああああああ!!」

何このカオス……ってこの二人が使ってる技どっかで見たことあるんですけど……しかも馬鹿みたいな魔力……そっぴや俺の魔力量どうなってるんだろ……一回封印としてみよ

「天地乖離す(エヌマ)、開闢の星!!」
エリッシュユ

「ト・シユンポライオン、デアアーコネット・モウラ来・フロコス、エビゲネーテートカタル~~ル~~ダス・フロギ~~ス~~ファイア・レウ
「契約に従い、我に従え、炎の霸王。来たれ、浄化の炎、燃え盛る
サントーン、ピョール・カイ、テイオン・ハ・エウ~~ル~~マルトウス・エイス、クイン・タナトウ、ウーラ
大剣。ほとばしれよ、ソドムを焼きし火と硫黄。罪ありし者を、死
ニテ・フロゴース
の塵に!!」

ふおおおおお!!?……何と言つか……やっぱ戦闘
こえええええ

「ああ、鬱だ……死のう……」

黄昏ている俺の目の前を黒い車が通り過ぎ、離れたところに居た前の少女二人を無理やり連れ去っていく

「……………ふぉ？」

ん……………？え……………？……………ちよ……………え……………誘拐？……………え……………と……………ざまぁww……………ふぉ！？

「誘拐？……………愉快だねえww……………」

ごめん……………いや……………本当ごめん……………パニックなんだ、わんわんパニックよりパニックなんだ

「……………はっ!？」

ちょっと待て!!これは……………これは!？友達フラグではないのかぁアアアアアアアア!

「そうだよ、ここで颯爽と助けてあげればお友達に!!」

「そうだよ!!なんて事だ!!天才か!?俺は・・・!?ハハハハ
ツハハハハ!!」

「そうと決まれば!・・・?車どこ行った・・・」

ふっ・・・見失ったぜ・・・

(諦めるのかい・・・?)

はっ!?!・・・貴方は!・・・もう一人の僕!?!
と言っなの幻想!!

(それで君は諦めちゃうのかい?)

・・・だつて、見失ったし・・・

(二人目・・・いや3人目の友達を諦めるのかい?)

で、でも・・・

(本当に・・・良いのかい?・・・チャンスだよ・・・?)

そう、チャンスだ・・・友達百人の大いなる第二步目だ・・・

(そう、今こそ君の力を・・・使うとき)

そうだ、ここで使わなきゃ俺の力を何処で使うんだ!!

注意：結構、色々を使う時はあります（戦闘とか戦闘とか戦闘とか）

（さあ今こそ呼ぼう）

ああ、来い・・・来いよ・・・俺の・・・

注意：主人公に呼ぶ物なんてありません（覚えないうり）

「気合でええええええええええ！サーーーチ！！」

考える！！車の特徴、・・・黒しか覚えてねえ・・・

「おう・・・」

（まだ方法はある・・・）

そう、まだ方法は有るんだあアアアアアアアアアア！！

「時よ、戻れ！！」

自分が居た場所を中心に時間の流れが逆送していく

「CHROROCK aWay
時を刻む」

そして時は動き出す・・・目の前の黒い車に連れ攫われる少女達の場面で

「さあて・・・穏便に戦わず、終らせようか・・・」

・・・待つてる！！お友達、2号！3号！

車が動き出し、そこから逃げさる

「逃がさねえよ！！」

その後を気配を消して追いかける・・・

追いかけて2、30分のところで車は止まり男が数人降り少女達を古びた小屋へと連れて行く

「敵の数は・・・4人か・・・ふう・・・そして機関銃にアサルト・・・それにグレネードか・・・」

外の見張りが1で中の見張りが3か・・・どうする外のを気絶させて中の奴をおびき出すか？いやそれだと全員が出てくる可能性は0に近い・・・なら確実に全員が外に出てくる方法で

「ああ、怖え・・・マジ戦闘勘弁・・・だが」

全ては友達のため！！・・・まだ友達じゃないけど・・・きつと友達に・・・なってくれるよね・・・

「いかにいかに、兎も角・・・やるか・・・」

ふう、まず外に居る奴を気絶しない程度に絶叫を上げさせる！！

「不意打ち、ごめんね・・・おじさん」

「なっ！？・・・んっぎゃあああああああああああ？」

思いつきり先程拾った気の棒で男の足を貫く・・・そして絶叫を上げた瞬間その意識を刈り取りテレポートで男を数百メートル先に移動させ・・・男の位置が分かるように血をテレポートで落とす・・・そして男の持っていた機関銃を上に向けて打つ。ダダダダダッと言っ音と共に屋根にテレポート

「どうしたっ!?!?」

「おい、血だ……どうやら向こうに連れて行かれたみたいだぞ」

「倉庫か……おい、行くぞ」

「ああ」

「ふう……あぶねえ……もう少しで俺の位置がばれるところだった」

男が3人倉庫に行ったのを確認して小屋へと入る……はあ……
たくよう銃、持つてるような奴に誘拐されるとかどこのお嬢様
だよ……そんな奴が歩いて帰るなツツツの

「ひっ……!?!?……だ、誰?」

「アンタ何者……?あいつ等は……」

「……」

……うん……しゅっ主人公さまあ!?!?
……と金髪の人……え〜と……まあ取り合えず

「ほら、紐解くから逃げるぞ?」

「え……」

「ちょっとアンタ何者なの!?!」

「シッ静かにしろ……あいつらが戻ってくるだろ?」

「……//」

怒鳴った金髪の子に人差し指を唇に近づけ小声でそう言う顔を見つ赤にした……。おっと近づきすぎたね……。めんめん

「ふう……。よし……。取り合えず紐は解いた……」

「あ、ありがとう」

「あ、アンタ……。どうやってここから逃げるのよ?」

「フフフっそこら辺も抜かりは無い……。計画第二段階発動だ」

先程、気絶させた男から抜き取ったグレネードの線を引き抜き男たちがいる倉庫から少し離れた場所にレポートする

「よし、これで当分はこっちに戻ってこないはず……」

「……？何言ってるの？」

「うん？ああ、何でもないよ取り合えずこの小屋から離れよう」

そう言って小屋から出っ……用としたが如何やら3人のうち一人がこっちに戻ってきたみたいだ

「はぁ……二人とも物陰に隠れて……」

「え？」

「どづいづ……」

「早くしろ……！」

「う、うん」「うん」

二人が小屋の物陰に隠れるのを確認した後、自分の気配を消し扉の横に佇む

「気分は……蛇……てね」

そして男が扉を開け中に入ってきた瞬間に行動を起こす！！

「おやすみ」

「っ……!？」

体の位置的にアレだったので……男のアレをアレした……
これだけで分かると思う……これ以上は男の俺からは……と
ても

「す、すごい」

「ほら早く行くよ」

他の二人はまだ居ない人物を探してるみたいだ……さてと
……

「すこし寝ててね二人とも……？」

「え……っ」

背後に回って二人の意識を刈り取る……さてとテレポート、
テレポート

「任務完了!!てか……」

我ながら恐ろしいほど計画通りだった……つふ……流石
俺……べ、別に足なんか震えてねえ

「さて二人が起きるまで待つか……」

俺が居る場所はいつもどおり俺の住処の公園

「んっ……ここは……?」

「お、起きたか……どうだ?目覚めは……」

「アンタは……はっ!?あいつ等は!?!」

金髪の子がまず目を覚ました、ソレに続いて主人公も目を覚ます

「んっ……」

「よし、もう一人も起きたね……」

「アンタ何者よ……?」

「俺?俺は紅生姜くれないしょうが通りすがりの少年だよ」

「・・・そう言う事じゃなくて」

よし・・・さて・・・そ、それでは・・・本題に!!（実はそれで頭が一杯だったり）

「で、でさお願いがあるんだけどさ!」

「なっなに?」

「な、なにかな?」

「と、とうx・・・友達になっしてくれないか!?」

「はっ?」

・・・駄目か・・・やっぱり・・・怪しいもんな・・・俺

「・・・ああ・・・だめ・・・ですか」

「あ、いやそう言う事じゃなくて」

「・・・はあく・・・なんか馬鹿馬鹿しい。良いわよ、友達になっ
てあげる」

「え、マジで!?!?」

「良いわよね？すずか？」

「え、あ、うん！良いよ、私の名前は月村すずか、よろしくね？べ
二くん」

ふお・・・ふおおおおおおおおおおおおおおおおおお！？友達
できたあアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアあああああああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああああああああああ

「何よ？そのべ二って？」

「紅くわなだからべ二くん！ね？」

「なるほど、私はアリサ・バニングスよ、よろしくべ二！」

「うん！！よろしくね。アリサ、すずか！..」

「／／／」

2人が顔を紅くしたのは予断・・・ふおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおひゃほっほいいいいいいいいいいいいいいいいいい
いいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい

この男のこのテンションも完璧な予断である

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9145v/>

強くなりたいが戦いは勘弁

2011年9月2日05時44分発行